令和８年度　　**5学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　　小平市立小平第一小学校

	課題：児童の実態・学習状況，指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国　語	○自分の考えを表現したり伝えたりする力が必要である。 ○分かりやすい構成で文章を書くことを苦手とする児童が多く見られる。 ○漢字の定着を図る必要がある。 ○読書が好きな児童もいるが、読む内容の偏りや読書量の個人差があるため、読書量を確保する必要がある。	☆ノートや一人一台端末を活用したり、グループ活動の機会を確保したりするなどの手立てを取り入れる。 ☆文章を書く活動の日常化を図り、抵抗なく文章を書く技能を高める。書く活動に抵抗がある児童は、一人一台端末を活用しながら文章を書く活動を行う。モデル文などを参考に文章が書けるようにする。 ☆普段から文章を書くときは、既習漢字を用いることを意識するようにする。 ☆読書時間を確保するとともに、読み聞かせやブックトークなどで紹介していくだけでなく、自分たちで紹介し合えるようにする。
社　会	○資料から集めた情報を分かりやすく整理したり、自分の言葉でまとめたりすることに苦手意識をもつ児童が見られる。 ○文章資料から情報を正しく読み取ることが苦手な児童が見られる。 ○自ら課題や疑問を見付け、解決していこうとする力を身に付けさせる必要がる。	☆調べたことに合わせて効果的に表現できるように、手書きやICTを使い分けながら新聞等にまとめるなど、自分に合った方法を選択して学習できるようにする。 ☆ＩＣＴを積極的に活用し、動画や写真、グラフ等の視覚的な資料から情報を収集したり、理解を深めたりできるようにする。 ☆教材提示の仕方を工夫して、もっと調べたい、ここはどうなのだろうという知的好奇心がわく課題を用意する。
算　数	○問題文を理解し正確に読み取る力が弱い児童が多い。特に数量関係を適切に理解することに課題が見られる。 ○既習学習の定着率を上げ、基本的な計算でつまずきを減らしていく必要がある。	☆問題場面を図や数直線に表すなど、学習課題や数量関係を正確に捉えられるようにする。 ☆習熟度別クラスの実態に沿って指導していく。難易度別の計算プリントに取り組ませたり、授業のはじめ3分間で習熟問題に取り組ませたりして、計算の速さや正確さの定着を図る。また、学習内容を一人一台端末、計算スキルなどで反復して確実に定着できるようにする。 ☆作図の有用性を知り、作図をもとに立式できる力を付けていく。
理　科	○科学的な事象に対する関心が高く、実験・観察等学習に意欲をもって取り組み、問題を解決していこうとする児童が多い。 ○求められる結果を想像して、実験方法を考えたり、条件を設定したりする力が必要である。 ○問題文を理解し、正確に読み取る力を身に付けさせたい。 ○表現力に個人差が見られるが、日常の経験から予想を立てたり、結果から分かることを考察したりする力が不十分な児童が多い。	☆基礎学力の定着を図るために、本時の課題を明確にしてより具体的な発問をする。また、日常の経験から問題の予想を立てられるように指導する。 ☆学習スキル（課題→予想→実験→考察→振り返り→新たな課題）を身に付けられるような授業を展開する。 ☆写真や図などICTでの視覚的資料を活用し、理解の定着と技能の向上を図る。 ☆自分の考えを図と言葉で表現できるように指導する。また、必要に応じてICTを活用し、それらを表現できるように指導する。 ☆班活動を基本とし、意見交換しやすい環境を整えることで、多様な意見に触れることと、自信をもって意見を発表することができるように指導する。
音　楽	○学習に意欲的に取り組み、楽しみながら学びを深めていくことができる。歌唱力の高い児童が多い。さらにより豊かな表現を目指し、歌い方の工夫を考える力を身に付けさせたい。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの器楽の学習は、技能面に個人差が見られる。	☆曲の特徴を全体で捉え、その特徴をもとに、どのように表現したいか、考えられるようにする。児童の考えや思いを引き出す発問を工夫する。さらに、友達と意見交流する場を設定し、考えを広げていけるようにする。 ☆一人一台端末などの情報機器を活用したり、楽譜の難易度をいくつか用意したりして、個人差にも対応できる指導法を工夫する。
図　工	○全体指導の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考える力を伸ばしたい。	☆板書、書画カメラ、一人一台端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声を掛け、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。ワークシートや学習用端末などを活用し、自分の思いや考えを確認したり深めたりできるようにする。
家　庭	○裁縫の学習においては技能に大きな個人差がある。 ○調理実習では、意欲的に取り組む児童が多く見られるが、生活経験から若干の技能の差があるため、共通の理解が必要である。	☆取り組みやすい簡単な課題を連続的に出し抵抗感なく技能が向上できるよう工夫する。 ☆ＩＣＴを活用し、映像を見ながら技能の習得を図る。
体　育	○単元によって、技能面で個人差が見られる。 ○めあてを具体的に立てたり、自己の課題を見出し次時に生かしたりする力が必要である。	☆安全面、運動量、関わりを重視し、体を動かす楽しさを十分に味わわせる。 ☆意図的・段階的に練習の仕方や効果的な場の作り方を提示し、児童が主体的に活動できる場面を作る。また、話し合いの場面を設け、互いに学び合いながら技能の向上を図るように指導する。 ☆学習カードやICTを活用して自分の体の動きなどを把握し振り返りができるよう指導する。
道　徳	○価値項目を理解しているが理解にとどまっている児童が多く見られる。自己の振り返りまでつなげることが難しい児童も見られる。 ○自分の考えをもつことはできるが、それを伝え合うことが必要である。	☆自己の生活経験を想起できるような振り返りの視点を提示する。 ☆価値項目に迫るために、議論する場面を意図的に取り入れ、児童同士の意見の中から価値が見出されるようにする。学習者用端末を活用した意見のやり取りを入れ、発言が苦手な児童の声も聴けるように工夫する。
外国語	○主体的に発表準備をしたり、アルファベット練習に取り組んだり、積極的に発音練習したりする児童が多くいる。	☆児童が主体的に取り組めるように、具体的に課題を提示していく。その際、ICTを活用したり、絵カードを活用したりしていく。 ☆家庭学習を進められるように、一人一台端末で練習用のチャンツなどを配信し続けていく。また、授業でもどのように発音するか何度も確認できるよう一人一台端末で歌やALTの動画を配布する。